

明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.46

2017年10月1日発行



真宗本廟（京都・東本願寺）報恩講

（2016年10月24日撮影）

東京一組教化テーマ

さとりをすまて
迷いと生きる

2017年8月4日に真宗本
 廟京都・東本願寺) 御影堂、親
 鸞聖人のご尊前におきまして住
 職の娘・唯果が得度をいたしまし
 た。得度とは真宗大谷派の僧侶と
 なるための儀式で、親鸞聖人が9
 歳で得度されたことにちなみ、満
 9歳から受式することができま
 す。
 ※詳しくは別紙をご覧ください



釈尼唯可(本田唯果)

得度披露



得度式当日、まずは、浄衣に身
 を包み式に臨みます。御影堂にて拝
 礼、三帰依文の後、門首により剃刀
 の儀が行われます。



得度式前日の3日に、親鸞聖人が
 得度をされた青蓮院門蹟を参拝し
 ました。



浄衣から直綴に着替え、再度拝
 礼の後、僧侶の証である墨袈裟と法
 名が授与されました。親鸞聖人墳
 墓の地である大谷祖廟に参拝し、
 度牒と法名が伝達されました。



ほんみょうじ

子ども会・夏

流しそうめん&

8月22日(火)〜23日(水)
お寺に泊まろう!!

第1部

第2部

流しそうめん

スイカ割り

カシ作り

花火大会

お泊り

ラジオ体操



「教化」とはなにか

竹原了珠 氏(企画調整局参事・

能登教区第十四組淨願寺)

2016年12月14日 青年研修会



私たち真宗大谷派僧侶は日々お念仏の教えに生活をしています。僧侶としての使命でもあります。「教化活動」についてはその方法も知識も様々で、教化活動をしたいけれどもどうしていいかわからない、あるいは、なぜ必要なんだろうと感じる方もいるのではないのでしょうか。講師からは「教化とはなにかを問いなおす」という主旨で講義をいただき、私たちにとっての教化

について、あらためて学んでいきます。
(案内文より)

教化活動は行き詰る

教化活動とは「苦しんでいる人を救う活動」と言っているんですね。お寺では「教化活動」、教区では「教化事業」と言い、教化が行われています。しかし、それらは本当に人を救う活動になっているのでしょうか。また、私たちにそんなことが出来るのか、しようとしているのか、という問いが出てくると思います。そのような問いが生まれて来ることは仏教の常識からすれば当然のことだと思えます。教化とは「仏事(仏、菩薩が衆生を救うためのお仕事)」です。一方、凡夫である私の現実には「邪見(自分よがりの考え方)」と「自大(う

ぬぼれ)」を離れることができない。また、この世は「遷流(周りの環境に流される)」「覆真(真実が見えない)」「破戒(決意を壊される)」であります。そのような凡夫である私がこの世の中で教化をしようとしても、行き詰ることは目に見えていくわけです。ですから、仏教の観点からは言えば凡夫の私たちにはこの世において教化活動・仏事を行うことができないことが前提なのです。

寺院の盛と衰

多くの寺院は様々な教化活動を行っています。私が知っている限りですが、最初は盛り上がりを見せてますが、徐々に低迷していく場合が多いです。その最たる原因は、行っている者が「独断の正し

さ」(邪見)で行動してしまうこと、そして「うぬぼれて自分の考えだけで行動してしまう」(自大)ことによると私は感じています。

ある場所で報恩講についてのアンケートを取ったところ、盛況の寺院と衰退の寺院に共通する二つの事が見えてきました。一つ目は盛況の寺院は聖域のない協働を行っているです。莊嚴や準備など、門徒と一緒に作っている寺院は盛り上がり、逆に寺に住む人だけで賄おうとしているところは衰退していく傾向が、特に田舎の地域でありました。二つ目は、情報を得るアンテナの種類と高さ、そこから得た情報に基づく行動力です。まず、情報はインターネットなどの情報だけではありません。地域の人から、また門徒から直接聞い

たことも情報です。情報を聞き取っていくアンテナは色々な種類や方向があります。そしてそれらのアンテナを高くし、得た情報に基づいて行動していく力がある寺院は盛り上がりを見せています。

しかし、このことに心がけながら、なおかつ「独断の正しさ」と「うぬぼれ」を対象化し、さらには「苦しんでいる人を救う活動」とまでいくことは困難極まります。

仏の精神の躍動

教化、仏事は仏のお仕事だと話しましたが、仏陀の入滅後に教化は行われてこなかったのでしょうか。そんなことはありません。「救い」の系譜は、ちゃんと受け継がれています。それは仏が出現しているからです。丁寧言えば、姿・

形ある仏陀ではなくて、仏の精神の躍動が自分の中にリアルに立ち上がり、そしてその仏の精神の躍動が周りの人にも共感・伝達されていく。そのことよって「救い(目覚め)」が伝わっていく。それが教化ということなのです。

これは私だけの考えだけではなく、歴史が証明してくれています。例えば、大乘仏教は仏陀滅後500年後に成立しました。しばらく前までは、大乘仏教は在家仏教運動として始まったと言われてきました。しかし、最近ではそうではなく大乘仏教が成立した意味は經典制作運動だと言われています。それは仏陀入滅後の仏教が変質し、世俗化していく中で、仏陀の精神を取り戻し、表現しなくてはならないと思う人が現れてきま

した。そこで生まれたのが大乘仏教なのです。仏とは何か、仏の本当の姿とは、仏はこの様に現れる、仏はこの様にはた用くということをし、自分に立ち上がった仏のはたらきのままに言葉として表現されてきたのが大乘經典であり、それが私たちの読んでいる『大無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』であったりするわけです。そこに仏がいる。自分の中に現れてきた仏を言葉として表現していくそれが大乘經典と言っていていいと思います。仏陀はいないけれど、大乘經典を生み出した人達の中に確実に仏が躍動している。躍動している仏を描き出したのが大乘經典なのです。他にも様々な形で仏が躍動してきた歴史があります。宗祖親鸞聖人も自身の中に仏が躍動し、そのこ

とを皆に伝えたから教えが広まったのでしよう。これらは自分の思っただけでやっていても全く広がりません。仏の精神が躍動するリアリティーが「教化」を成立させるのです。

浄土の教えのリアリティー

躍動する仏に出会うというのは浄土真宗だけの形ではありません。仏教の修行の中で大事にされてきた事は「見仏けんぶつ」です。

どの宗派でも仏に会う事は必ず必要なことです。そこでしか自分が歩む力は得られないということが分かっていくからです。では浄土の教えの中で仏を見るといふのは何かというと「称名」です。阿弥陀の精神の躍動が名として現れている。凡夫の身の上に現れるはず

のない仏が現れてくる「大行」なのです。親鸞聖人は称名に「大悲の願」のリアリティーを見ます。親鸞聖人は『教行信証』の中に「大悲の願」について記していますが、これは解釈ではなくて自分の中にリアリティーをもって表現されてきた言葉が記されているのです。

親鸞聖人が表現した「大悲の願」を簡単に言えば、「すべてをおさめる広さと、汚され変質することがない清浄さ。苦悩の縛りを解く強靱さと、目覚めをもたらす確かさ」と言えます。親鸞聖人は自分に届けられる称名をこの様に表現するのです。そして、「大悲の願」が躍動するままに親鸞聖人は人々に出会い、生きられたに違いないのです。そうでなければ多くの人たちが親鸞聖人に教えをいただいで一

緒に念仏を申し合う関係が広がっていったとは考えられないと思います。「大悲の願」があらゆる人々を救う、この願いが躍動するままに親鸞聖人は生きられた。

經典の受け取り

經典は制作者や翻訳者自身の中に立ち上がってきた仏がリアルに浮かび上がるように書かれています。そのようなものでなければ仏説とは言えない。そうでなければ周りから佛説として認められない。經典の言葉には、制作者が得たたくさんの出会いによって形作られた感性が非常に濃厚に表れています。經典の登場人物の動きや言葉、人間、環境の課題が、私たちと重なってくることで、仏が立ち上がってくるのだと思います。

親鸞聖人は、目の前にあらわれた出来事を通して躍動する仏の「悲願」を感じたのでしょうか。皆さんも自分の上に現れる仏（念仏）を丁寧描ききって下さい。そこには、教化が働き出す源はないはずです。

社会の様々なことの中に

これは經典だけではなく、世の中の様々な悲しい出来事の中に仏が躍動する場を見ることができると思います。そのような形で私たちは教化という活動が行えるのだと思います。

私は一度お寺の子ども会をやめたことがあります。それは全て自分で準備をして運営をしていたからです。辛くなった私はやめる理由を探しながら子どもたちと遊

んでいました。仕事の関係で子ども会をやめざるを得なくなり、ホッとしました。その子ども会を今年からもう一度始めることにしました。そのきっかけは昨年、私が住んでいる町で中学生が自死したことです。いじめがあったそうです。そのことを親にも誰にも言えなかった。もしお寺がその子にとってもう一つの生きていける場所になれば、心を寄せる場所になれば、お寺というよりも仏の願いがこの子に届けられていくならば、自死をせずにすんだのではないだろうかと思ったからです。この事をきっかけにもう一度子ども会を始めようと思ったのは、私が自分の思いで悲しんだからではなく、私の中に仏が名乗り出て、仏の悲しみが私を突き動かしたのではな

いかと思います。

おわりに

私たちも、仏が現れるリアリテイーのままに、一人ひとりの出会いにしたがってやりたいことをやればいいと私は思います。ここに仏（教化）が用きだします。今ここに用きだしているリアリテイーを感じ取る。そのための学びであり、そのための出会いであり、そのための様々な活動なのだと思います。私が教えていただいた言葉があります。

「どれだけ一生懸命やっても教えが伝わる確証は何もない。いいか、竹原。万の中の一つだ。それでも俺たちはやるんだ。」（本田彰一）

（教区教化委員会広報紙
『ネットワーク9』掲載記事より）

その他の歩み



- ◆ 7月3日（月）
児童教化連盟 総会
- ◆ 7月4日（火）
東京一組 教化委員会
- ◆ 7月26日（水）～28日（金）
児童教化連盟
サマーキャンプ2017
- ◆ 8月4日（金）～7日（月）
同朋ジュニア大会
- ◆ 8月19日（土）
湾岸親鸞講座①

◆ 8月24日（木）

東京一組 よにん会

エンディング産業展見学

◆ 8月31日（木）～9月1日（金）

東京都慰霊堂秋季大法要

◆ 9月29日（金）

東北連区

青少年教化連絡協議会

などなど



→エンディング産業展

Pepper（ペッパー）導師

お寺の掲示板

七月
八月
九月

七月

八月

九月



生えて
困る草を
勝手に
雑草と
呼んで
いました
高光かちよ

正しさの
名のもとに
人は争う
人は迷う

賢く
考えて
愚かに
行動するのが
人間の性だ
アナトール・フランス

本明寺の予定

◆本明寺 おみがき奉仕のつどい

期 日 .. 10月22日(日)
時 間 .. 13時～16時

◆本明寺 報恩講法要

期 間 .. 10月28日(土) 14時～速夜法要
御伝鈔拝読

29日(日) 9時～晨朝法要

13時～日中法要

14時～法話

15時～お斎

◆本明寺・福成寺共同開催

大人の遠足2017

期 日 .. 11月26日(日)

行き先 .. 報佛寺(茨城県水戸市)

大洗方面

※詳しくは、チラシをご覧ください。

◆本明寺 聞法会

期 日 .. 2017年

11月26日(日) ※大人の遠足2017

12月24日(日)

2018年

1月28日(日) ※東京教区報恩講参拝

2月25日(日)

3月25日(日)

4月29日(日)

時 間 .. 15時～17時 (終了後懇親会があります)

お 話 .. 本田 彰一 (本明寺住職)

テ ー マ .. 輪読をしよう

(『真宗の生活』を一緒に読み、語り合いましう)

参加費 .. 500円

◆本明寺 修正会・新年会

期 日 .. 2018年1月8日(月・成人の日)

時 間 .. 11時～修正会

12時～新年会

年忌案内 2018年(平成30年)	
回忌	命終された年
1周忌	2017年 (平成29年)
3回忌	2016年 (平成28年)
7回忌	2012年 (平成24年)
13回忌	2006年 (平成18年)
17回忌	2002年 (平成14年)
23回忌	1996年 (平成8年)
25回忌	1994年 (平成6年)
27回忌	1992年 (平成4年)
33回忌	1986年 (昭和61年)
37回忌	1982年 (昭和57年)
43回忌	1976年 (昭和51年)
47回忌	1972年 (昭和47年)
50回忌	1969年 (昭和44年)
75回忌	1944年 (昭和19年)
100回忌	1919年 (大正8年)

※お申し込み・お問合せは、お気軽に本明寺までご連絡ください。

※会場は不定です。お問い合わせをさせていただきます。

講師：木越 康 氏（大谷大学学長）
 受講料：1,000円
 会場：すみだ産業会館、他

◆湾岸親鸞講座（市民講座）
 テーマ：「現代社会と宗教、そして親鸞」
 ー（3）『教行信証』を読むー
 日程：② 2017年 10月28日（土）
 ③ 2018年 12月23日（土）
 ④ 2018年 2月17日（土）
 ⑤ 4月7日（土）
 ⑥ 6月16日（土）

このような時にお参りします

◆法事

上記の年回忌や四十九日法要など

◆祥月命日

上記の年回忌以外の当月命日

◆月命日

毎月の命日

◆春秋彼岸

春季（3月）、秋季（9月）のお彼岸

◆お盆

7月（都内） 8月（都外）のお盆

◆その他の仏事

誕生記念、入学祝い、卒業祝い、成人記念、結婚式、お内仏（お仏壇）安置、入仏式など慶弔を問いません

お参りをご希望される方は、日程、場所（お寺、ご自宅、墓地など）が決まりましたら、一カ月前までにお寺までご連絡ください。ご希望に添えない場合もございませうがご了承ください。

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、経典 浄土三部経 仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 十、宗風 礼拝の生活
《朝夕に勤行をいたしましょう》
正信の生活
《迷信に惑わされないで歩みましょう》
聞法の生活
《仏法を聴聞し、生まれた意義と
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

▼娘の唯果が無事に得度しました。今年の報恩講にてご披露させていただきました。
▼毎年夏は子ども会三昧。そして今年の本明寺においても夏の子ども会を開催。楽しいひと時を過ごすことができました。

★ご意見・ご感想・ご質問などをお待ちしています。

★バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。すぐにお送りいたします。

発行 真宗大谷派 本明寺
住職 本田 彰一（釋 彰一）
〒130-0012 東京都墨田区太平二・七・一
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>